負暄錄

五

特別
イ4
1919
110

176394

○鎮毒祓の歌人

鎮毒祓毒民の産物男女を問はず歌人の道
なりとは言ふ、[illegible]して天
皇の意を体せんとして[illegible]を道の一筋
として[illegible]注す、仏面[illegible]
裏面を[illegible]雷[illegible]の大道これを指揮し能
優の訓練を為すること、さながら[illegible]
[illegible]を[illegible]中二十[illegible]を[illegible]
妙[illegible]百[illegible]演劇の[illegible]を[illegible]指揮
[illegible]大道[illegible]一唱を[illegible]

38- 8916

○[illegible]

似て美術院流の[illegible]流石流の[illegible]多
[illegible]の潮[illegible]行き[illegible]流石[illegible]
けん公眼を恐[illegible]察[illegible]雅邦氏先
[illegible]観山大観[illegible]茅四五の僧[illegible]人の[illegible]
[illegible]とめ[illegible]あ[illegible]の[illegible]而[illegible]茅四五と[illegible]
[illegible]賞賛[illegible]雅邦の[illegible]
[illegible]用[illegible]傑作[illegible]
[illegible]の[illegible]照[illegible]を横[illegible]大[illegible]十数の美人を[illegible]
く彩[illegible]北流の長[illegible]を[illegible]流石[illegible]

[illegible]の[illegible]と[illegible]顔容の姉姉[illegible]似
[illegible]且つ顔[illegible]
[illegible]眼の[illegible]
[illegible]人公と[illegible]
[illegible]一[illegible]
[illegible]而[illegible]大観の[illegible]
[illegible]の大[illegible]出[illegible]角[illegible]
[illegible]毎人を[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]塗[illegible]を施し人[illegible]
[illegible]
[illegible]塗上持の[illegible]方[illegible]
[illegible]

毎年の人数と戦操の状あるを考へて作るつもりと
なし給へ共人数と組みの扱ひ考へる
と情なし

東京帝国大学

羅氏鳴沙山石室秘錄

唐書柳公權傳（附柳公綽傳）言書書京兆西明寺金剛經有鍾虞褚陸諸家之法自爲得意（舊傳略同）又

金石錄及寶刻類編載柳書金剛經會昌四年寶刻叢編引金石錄京兆府安國寺模西明寺金剛經柳公權書大中十六年六月（據諸書）

知此碑在當時有摹石因傳拓太多石刻旋毀故一刻再刻宋人已不能見原刻也我輩眼福竟出宋人之上非厚幸與

○市之丞殿御屋敷御[illegible]
[illegible]記

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]上[illegible]場所
[illegible]の[illegible]屋敷[illegible]を[illegible]人と[illegible]江戸[illegible]人と[illegible]
行き[illegible]、[illegible]御屋敷[illegible]毎年[illegible]二[illegible]の花[illegible]の
[illegible]河[illegible]祝[illegible]
[illegible]の[illegible]
の書画、[illegible]山[illegible]の書、[illegible]
[illegible]、陣列の[illegible]入[illegible]右手の[illegible]一[illegible]
[illegible]特[illegible]屋敷のあ[illegible]特[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

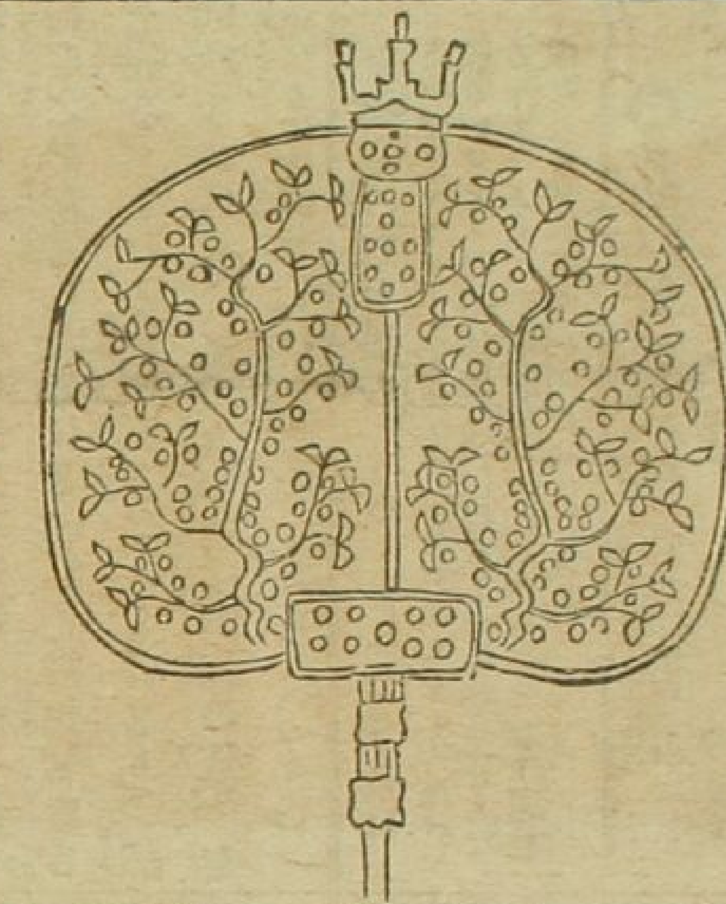
[illegible]
唐玉田の心の田堆朱楊成の拙書を所望し侍る者こん
[illegible]
棄裡陳飯帰へこゝの花入、古備前胴高の水指オ[illegible]
[illegible]
[illegible]
を一字刻し其の左右に「[illegible]」「施主[illegible]」
と二行に刻もて、塔上に陳列播四方[illegible]先の弥勒
の陳列室に入るべき[illegible]堂[illegible]羅、行基の[illegible]
[illegible]之和尚[illegible]の[illegible]

起これる元代の[illegible]行房の[illegible]
[illegible]の二[illegible]
[illegible]（抜粋）壬
[illegible]（抜粋）[illegible]
[illegible]
[illegible]特に興味を感じ且つ清澄の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
（以上の抜書出来）[illegible]
[illegible]

傳ふる観音菩薩の画像を立て冥北の追善のこと
と枝の帳を立て字佐宮に奉る（のまま）
う合して画をうゝしめ給ふ羽を書こゝとゝ傳ふるとゝ
四幅あるとゝ云ふ
お阿闍の五の図二体の高僧の高僧とゝ云ふ神光心経元
信の書井形の高僧とゝ云ふ
う、ゝ、前田侯土佐（初め）の出来のゝとゝ云ふ伊人
七一雪を雲とゝ雪舟の四幅元鳥の屏風を双
とゝ屏風を縮みのゝ次ぐとゝ弘法大師
筆の儀軌とゝ云ふ諸仏出来の内の所出来とゝ

井上伯出来の内文山の五山の傳十二人の僧をもしの
巨勢金岡筆と傳ふる佛画、西村法橋つ出来座屏
筆保津川渡端の図（屏風）平亮ゝ出来座屏
花月既紙に恢ゝ云ふ保津川渡端の図
土筆力超凡洞ゝ稿世のゝとゝ思ふ、三時命ゝ
仁清ゝ作ゝ云ふゝ文仁清ゝの数出来ゝ南蛮
内張ゝ方指、素性筆、月に本紙多作信玩
方指多紙紙方指紙ゝ方ゝ、夢信
ゝゝ拙ゝ多ゝ出来の表表彩絵金屏風紙ゝ扇紙
針隠ゝ毛彩、ゝ白世ゝ世ゝ傳ゝ考ゝ考ゝゝべき高

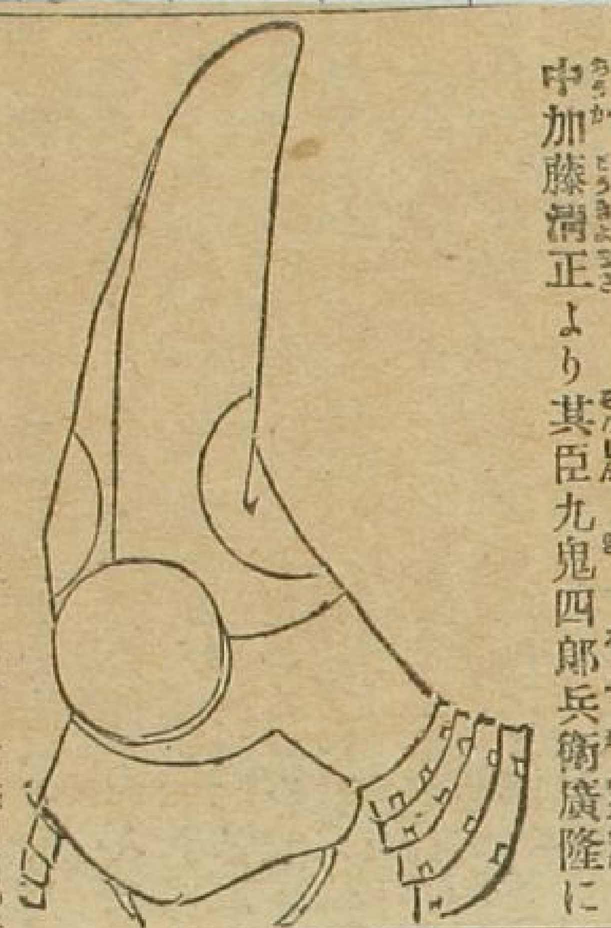
也武器の所蔵せるものなるか中央に陳列せる歴



此軍配は豊臣秀吉の遺品にして妙法院門跡の所藏なりしが今は御物となれり豊公の遺寶圖畧に柄及び輪等皆黄金にして赤地の織物を以て團面を張り金糸にて唐花を繡し其葉の上に各細粒の眞珠を綴る中央の頭に大粒の眞珠琥珀瑠璃を綴る長一尺七寸四分横徑九寸柄九寸重百一錢餘と見えたる即ち是なり

史的遺物三品あり一は豊太閤の軍配 二は黒田長政の大軍配 三は長烏帽子なり 豊太閤の軍配は上図の如きものにて無数の珍宝を以て装飾し糸も悉く純金を用ゐ殊に美麗なるものに候し御物也 同品に附しある説明書は図に附記の如し 第二の軍配は三尺八寸の竹にて白熊の毛重ねつけたるものにて

文禄征韓の役に豊太閤より黒田長政に与へしものにて黒田長政の出品也 長烏帽子は加藤清正着用の軍帽にて錦にて包みたるもの 徳川茂承の出品なり 其余は義経所持と称する甲冑の鎧を拝し



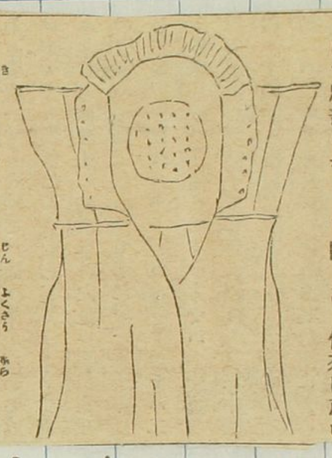
△加藤淸正長烏帽子兜（侯爵德川賴倫氏所藏）
博物館の説明に曰く『此兜は蔚山籠城中加藤淸正より其臣九鬼四郎兵衞廣隆に與へたるものにして廣隆は後に德川賴宣に仕へ子孫代々和歌山に住せり明治二十四年其裔隆恕之を舊主に献じて今は德川家の藏となれり』

たる鎧 紅羽を以て作りたる陣羽織 緋羅紗毛（まるも）の陣羽織（赤黄白縦出来）にて雨多く完全なる飾られたる戦国的紀念として完全なる趣味ある差し錦嶋立派出来の袖袍なるべし 其の大略左の如し

▲襠袍（侯爵鍋島直大氏所藏）

この襠袍い島原の役鍋島勝茂氏の着用せしものなりと云ふ形い普通の陣羽織と異り現今の洋服フロークコートの如きものにて胸部にボタンを附しあり傳來に就いて聞くにポルトガル人の服裝に倣ひその形を利用して我が陣羽織となせしものなりと云ふ同品裏地の背部圓形の中に左の文字あり

此襠袍予父鍋島氏勝茂所襲也裁而予爲甲冑之上衣所謂母衣其比之耶豈不添逆矣



前書ハ源氏千鳥の香炉ハ有名なる御物の一ツ
なるべし、こんも御物の一ツ
なるべし、源氏千鳥と
云ふも千鳥の形や模様ハ
なるべし、此上書の
書様の香炉ハ蓋も無
なるべし、こんも仙石政固ノ献
ハ、なるべし、雲形ハ
へてあるべし、雲ハ
先祖伯耆守秀久文録三年
甲午 伏見城ニ立ル御先城

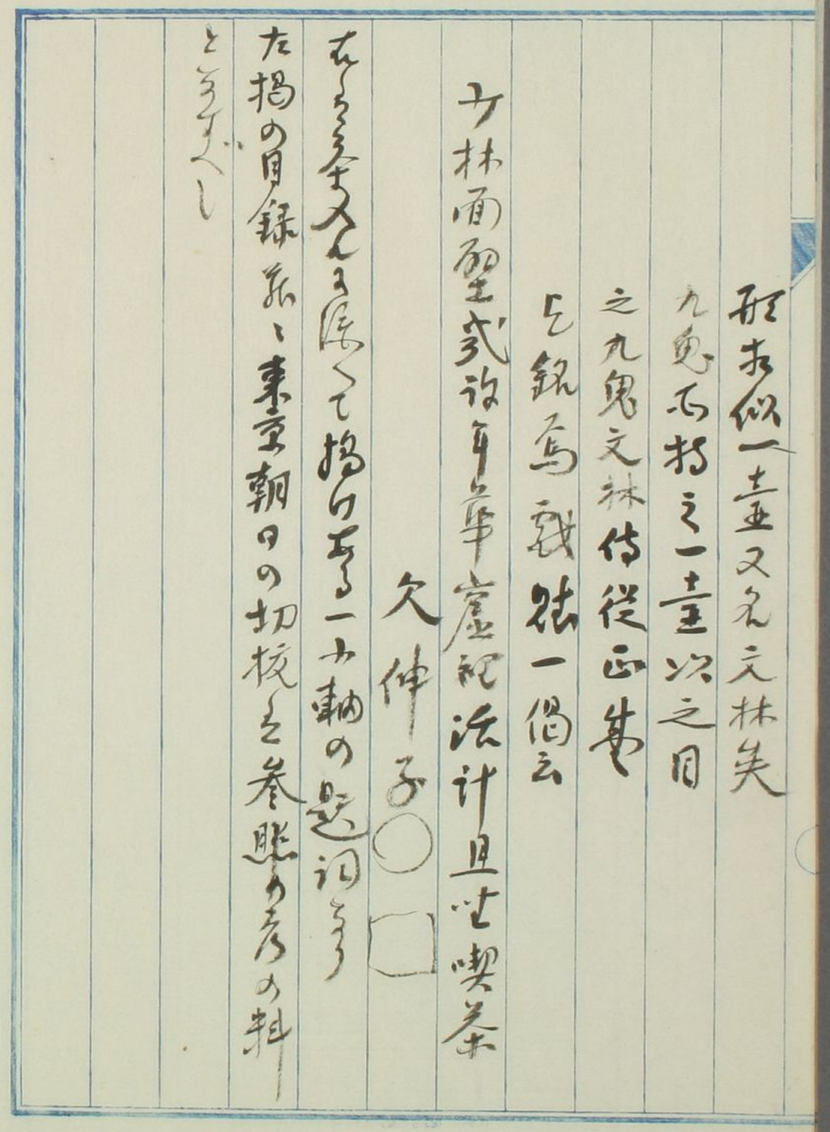
石川丈山ハ詩人ハ
其作品ハ
左ノ如ク本邦中ニ三個
一 水戸侯 一 政固卿 一 五花瓶（但シ
松平氏献上ス、品数ハ三点）
壬申 三月 仙石政固
九ツ高名ハ一品ニ
九鬼文林 三本入 山松宮内
茶釜 堀田正睦 林道春文林記 巻ハ
古文林 江月軸ハ海
不知其名 伊弟文林ハ所也

明治三十五年四月

第三回特別展覽會目錄

東京帝室博物館

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、



一本會今回ノ列品ハ凡ソ左ノ四項ニヨレリ然レトモ一家ニテ一室全部ヲ受持出品ノ分ハ必シモ拘ラス

一足利氏以上ノ書畫

一圓山四條兩派ノ畫

一內外陶磁器

一武器

一物品ノ名稱及作者製作地等ノ如キハ都テ所有者ヨリ提供スル所ノ傳來ニヨル

第三回特別展覽會目錄

御物

第一號　弘法大師行書　壹幅
第二號　菅公大安寺緣起　壹卷
第三號　紀貫之書和歌殘闕　壹幅
第四號　行成卿消息　壹幅
第五號　行成卿書朗詠集　貳帖
第六號　定家卿慶賀和歌　壹幅
第七號　小松內府消息　壹幅
第八號　阿佛消息　壹幅
第九號　星蔓茶羅　壹幅
第一〇號　天神緣起　參卷

第一一號　天神緣起　仙石政固獻上ノ分　六卷
第一二號　千鳥香爐　壹個

小松宮御藏品

第一三號　淨辨法師自詠短冊　紙本　壹幅
第一四號　俊成卿歌道教訓文　同　同
第一五號　兼好法師筆歌切　同　同
第一六號　後京極良經公眞跡　同　同
第一七號　聖德太子御影　傳巨勢金岡筆　絹本着色　壹幅
第一八號　仙人圖　狩野元信筆　紙本墨畫　同
第一九號　唐兒遊圖　同　紙本着色　同
第二〇號　葡萄栗鼠圖　圓山應擧筆　紙本墨畫　同
第二一號　車爭圖屏風　傳土佐光茂筆　紙本着色　壹雙
第二二號　黃瀨戸伯菴茶椀　箱書　小堀權十郎　壹個

第二三號　仁清造茶盌　紅葉五器寫　同
第二四號　同　銘仁和寺　箱書　小堀權十郎　同
第二五號　同　蘆雁畫　無印　同
第二六號　志野茶椀　半筒　同
第二七號　長次郎茶椀　半筒　同
第二八號　雲堂茶盌　箱書　覺々齋　同
第二九號　光悅造茶盌　銘小筒　同
箱書　久田宗也　外箱書　藤屋傳右衛門　刷毛目寫
第三〇號　仁清作平茶盌　傳來土方縫殿助所藏　同
箱書　近衛家熙公
第三一號　禮賓茶盌　銘松島　同
箱銘金字　小堀政貴
第三二號　仁清作茶椀　片身替リ　同

第三三號　同　忍草ノ繪茶盌　箱書　金森宗和　同
第三四號　仁清作平茶盌　銘清閑寺　同
第三五號　仁清作琵琶香合　梶井常修院宮傳來　同
第三六號　唐物耳付　中古名物　銘耳付　同
蓋二　袋三　挽家鐵刀木銘小堀宗甫
箱書　小堀宗甫　袋箱書付同斷
第三七號　九鬼文琳　大名物　同
蓋一　袋三　挽家牙　箱書　金字豐前守紀正
卷物　林道春文林記　軸物江月和尚
第三八號　仁清作肩衝茶入　無印　同
第三九號　仁清作春慶寫ひさし形　無印　同
蓋一　袋一
第四〇號　仁清作置花入　獅子耳　銘四季之友　同
第四一號　和蘭燒置花入　喇叭形　梅花畫　同

第四二號　藤山吹鶏　山階宮御藏品　應瑞筆　絹本　雙　幅
應震筆　着色

北白川宮御藏品

第四三號　定家卿明月記　廿一日天陰未明云々　紙本　壹　幅
第四四號　法性寺關白殿消息　法眼事云々　同　同
第四五號　智證大師尺牘　午承光示云々　同　同
第四六號　策彥詩二首　餘杭門外　同　同
第四七號　產拾牛　雪舟筆　紙本　墨畫　同
第四八號　猿猴圖　默菴筆　同
清拙贊
第四九號　中西王母左右鶴龜圖　圓山應擧筆　絹本　着色　參　幅
第五〇號　牡丹ニ猫圖　狩野季賴筆　紙本　墨畫　壹　幅
第五一號　智證大師戒牒等　八卷附貳紙
智證大師戒牒　壹　卷

大師號官符　同
内供奉官符　同
太宰府公驗狀　同
江州福州公驗狀　同
智證大師筆　同
台州福州公驗狀　同
大友氏屈請　壹紙
眞筆小切　同

第五二號　手鑑　壹帖
第五三號　王文安清凉帖　同
第五四號　肥前燒染付茶壺　壹箇
第五五號　黄南京花瓶　同

第五六號　世尊寺行尹卿筆勸進帳　紙本　壹幅
第五七號　大手鑑　壹帖

梨本宮御藏品

第五八號　山水圖　圓山應擧筆　紙墨畫　壹幅
第五九號　孔雀圖　松村吳春筆　絹本着色　同
第六〇號　木蓮圖　同　紙本墨畫　同
第六一號　菜花ニ兎圖　長澤蘆雪筆　絹本着色　同
第六二號　雞圖　松村景文筆　絹本着色　雙幅
第六三號　古畫　傳云舊大原御殿御張付　紙本着色　七拾七枚

第六四號　仁清作茶入　壹箇
第六五號　尾戸燒茶入　同
第六六號　古清水茶椀　同
第六七號　仁清作茶椀　同
第六八號　古染附水指　同
第六九號　仁清作水注　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第七〇號　粟田燒ッル付香合　同
第七一號　古備前花入　同
第七二號　黃瀨戸舟花生　同
第七三號　仁清作花入　同
第七四號　呂宋茶壺　同
第七五號　同　同
第七六號　琉球燒六角形手爐　同
第七七號　水物鉢　同

京都帝室博物館

第七八號　青綠山水圖　松村吳春筆　絹本着色　壹幅
第七九號　唐美人圖　駒井源琦筆　紙本着色　壹幅

公爵近衛篤麿

第八〇號　後島羽院宸翰　寂蓮家隆懷紙　參幅
藤代王子和謌會　建仁元年十月九日當座
第八一號　二條后宸翰不空羂索神咒心經　紙本　壹卷
第八二號　護良親王御消息　吉夜面謂云々　壹幅
第八三號　尊圓親王御消息　明月云々　同　壹卷
第八四號　貫之筆古今集切　よしのかは　同　壹幅
第八五號　橘逸勢墨蹟　市闤　闤　同　同
第八六號　行成卿書　驪宮高　同　壹卷
第八七號　法性寺殿消息　女房記云々　同　壹幅
第八八號　同　內女房事云々　同　同
第八九號　宇治賴通公書　長保元年正月云々　師實公加筆　同　同
第九〇號　俊賴朝臣書　康平四年三月四日　宇治望山花　同　同
第九一號　定家卿假字文　としをへて云々　同　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第九二號　定家卿詠歌　同　壹幅
第九三號　定家卿詠草　初瀨山をはつをや　同　同
第九四號　爲家卿消息　諸方云々　定家卿加筆　紙本　同
第九五號　爲相卿消息　明日對決の事云々　宣房卿加筆　同　同
第九六號　惠雲院植家公懷紙　詠二首和歌　見花なれて見し　同　同
第九七號　徹書記三首懷紙　水邊螢　夏月涼　山家路　同　同
第九八號　道遙院内府請待狀　數日又云々　紙本　同
第九九號　一休和尚書　雲横云々　文明元年一休七十七歳　同　同
第一〇〇號　近衛使　畫隆兼筆　紙本　詞季邦筆　着色　壹卷
第一〇一號　山水圖　傳啓書記事　紙本　墨畫
第一〇二號　枇杷小鳥圖　慈照院義政公筆　紙本　墨畫　同
第一〇三號　水鄕圖　傳相阿彌筆　同　同

第一〇四號　暮林鴉　狩野元信筆　同　同
第一〇五號　山水圖　同　參幅
第一〇六號　蝦蟇鐵枴圖　同　雙幅
第一〇七號　鷄冠花靑瓜圖　小栗宗丹筆　紙本　着色
第一〇八號　麝香猫圖　狩野雅樂助筆　同　壹幅
第一〇九號　大原神樂圖　土佐光茂筆　紙本　着色　同
觀音三十三身圖　雪舟筆　紙本　淡彩　壹帖
第一一〇號　羅漢像　秋月筆　紙本　着色　參幅
第一一一號　人麿像　狩野松榮筆　龍山大師賛　同　壹幅
第一一二號　墨蘭　玉腕子筆　紙本　同
第一一三號　山水圖　奈良法眼筆　紙本　墨畫　同
第一一四號　睡猫圖　曾我直庵筆　紙本　着色　同
第一一五號　達磨像　雲谷等顏筆　紙本　墨畫　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花靑瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第一一七號　宇治拾遺　書守信尚信安信三筆　紙本着色　四卷

第一一八號　琵琶ニ月圖有賛　曉月房筆　紙本着色　壹幅

第一一九號　牡丹睡猫圖　圓山應擧筆　紙本墨畫　同

第一二〇號　案山子圖　馬の耳に風　同　同

第一二一號　富士山圖　同　同　絹本墨畫　同

第一二二號　竹雀圖　同　同　紙本墨畫　同

第一二三號　競馬馬　同　同　紙本淡彩　同

第一二四號　中筍左右竹圖　大鵬筆　紙本墨畫　同

第一二五號　二見浦圖　松村景文筆　絹本着色　壹幅

第一二六號　壽老人圖　謝春生筆　紙本着色　同

第一二七號　嶋臺　圓山應立筆　絹本着色　同

應擧印二十七顆ヲ捺ス

第一二八號　朝顔雞圖　圓山應文筆　絹本着色　同

第一二九號　中秋圖　同　紙本着色　同

第一三〇號　徑山精舍圖　奥書享保十年　紙本　貳卷

第一三一號　鎌倉參詣十景圖　筆者不詳　絹本着色　同

第一三二號　山水圖有序　宗旭筆　紙本淡彩　壹卷

第一三三號　人物　傳馬麟筆　紙本着色　壹幅

第一三四號　墨梅　王元章筆　紙本　同

第一三五號　墨竹　容恭賛　絹本　同

第一三六號　爪圖　梅道人筆　絹本墨畫　同

第一三七號　壯丹圖　孟子固筆　絹本着色　同

第一三八號　東坡騎驢圖　郭熙筆　同　同

第一三九號　栗鼠圖　傳舜擧筆　絹本墨畫　同

第一四〇號　雙松孤楓圖　用田筆　絹本着色　同

王季本筆

第一四一號　石菖蒲圖　柏子庭畫賛　絹本墨畫　壹幅

第一四二號　水墨山水圖　有賛　劉楊烈筆　絹本　同

第一四三號　楊柳遊禽獼猴圖　黙菴筆　絹本墨畫　同

第一四四號　柳鵁鶄圖　琦楚石賛　紙本墨畫　同

第一四五號　夏景聚禽圖　邊楚善筆　絹本着色　同

第一四六號　三條公忠卿筆朗詠切　書　土佐經隆筆　紙本　壹幅

第一四七號　西行記　詞二條爲家卿兩筆　尊應准后筆　紙本着色　壹卷

第一四八號　山水圖　周文筆　紙本墨畫　壹幅

第一四九號　壽老人圖　賛　龍派江西　以篤信中心田清派　雪舟筆　紙本着色　壹幅

侯爵蜂須賀茂韶

侯爵前田利爲

第一五〇號　定家卿消息　けさより　紙本　壹幅

第一五一號　大燈國師黑蹟　初心始學士　同　同

第一五二號　一休禪師墨蹟　諸惡莫作　同　同

第一五三號　同　一點梅花　同　同

第一五四號　圓鑑國師墨蹟　一夜落花雨　同　同

第一五五號　武田元光懷紙　同　同

第一五六號　寂蓮法師懷紙　傳畫土佐光重筆　詞筆者不詳　紙本着色　壹卷

第一五七號　繪草紙　紙本　同

第一五八號　弘法大師筆經　南謨　紙本着色　拾壹卷

第一五九號　一遍聖人繪傳　紙本　壹卷

第一六〇號　宗尊親王御筆誹諧歌　同　同

第一六一號　菅原章長卿和歌聯句懷紙　紙本　參卷

第一六二號　尊鎮親王御筆伊勢物語

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第一六三號　藤原兼實公詠百首應制和歌　紙本　壹卷
第一六四號　明惠上人筆佛生會講式　同　同
第一六五號　繪草紙　畫土佐光茂筆　詞三條實隆公筆　紙本　着色　同
第一六六號　藤原宣房卿筆法華經　勸發品　紙本　同
第一六七號　尊圓親王御筆古今集　同　壹冊
第一六八號　二條爲重卿筆續後撰集　同　貳冊
第一六九號　西行法師筆中務集　紙本　壹冊
第一七〇號　爲相卿筆閑居友　同　貳冊
第一七一號　爲家卿筆金葉和歌集　同　壹冊
第一七二號　尊良親王御筆蒙求和歌　同　同
第一七三號　爲氏卿筆續古今和歌集　同　四冊
第一七四號　頓阿筆古今和歌集　同　壹冊
第一七五號　爲定卿筆古今和歌集　同　同

第一七六號　向阿上人筆來迎讃　同　同
第一七七號　徹書記筆倭歌灌頂　同　同
第一七八號　淨辨筆古今集　同　同
第一七九號　尊雲親王御筆合行灌頂私記　雪舟筆　紙本　墨畫　壹幅
第一八〇號　山水圖　同　同
第一八一號　富士山圖　同　參幅
第一八二號　中壽老左右龍圖　狩野元信筆　同　壹幅
第一八三號　四聖圖　秋月筆　紙本　着色　双幅
第一八四號　竹鶴圖　松村吳春筆　絹本　着色　參幅
第一八五號　中瀧左櫻右山鳥圖　雪舟七十一歳筆　紙本　着色　壹雙
第一八六號　花鳥圖屏風　狩野元信筆　紙本　墨畫　同
第一八七號　山水圖屏風

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第一八八號　宗半肩衝茶入　牙蓋三袋四　壹箇
第一八九號　淺井肩衝茶入　牙蓋　袋二　同
第一九〇號　瀨戸尻張肩衝茶入　牙蓋　袋三　同
傳云江月和尚所持挽家鐵刀木江月ノ詩彫刻
第一九一號　石河丸壷茶入　牙蓋　袋二　同
第一九二號　白天目　同
傳云紹鷗所持　豊臣秀次傳來　利休手簡添
第一九三號　建盞天目　同
第一九四號　井戸茶椀　同
傳云小堀遠江守傳來
第一九五號　彫三嶋茶壷　同
第一九六號　春慶茶壺　同
第一九七號　唐物茶壺　同
第一九八號　瀨戸さゞ耳扁壷　口覆蜀紅　同

第一九九號　古枠附扁壺　口覆金襴　同
第二〇〇號　三嶋暖婆　牙蓋　袋一　同
第二〇一號　青磁口寄香爐　紫檀蓋　袋一　壹
第二〇二號　古染附雲堂香爐　牙蓋　袋一　對
第二〇三號　古染附膨雀香合　同
第二〇四號　切子形赤繪香合　同
第二〇五號　備前燒壽老人置物　同
第二〇六號　天龍寺青磁鉢　壹面
第二〇七號　宣德染附陶硯　同
第二〇八號　青磁硯　銘玉德金井　牙蓋　袋一　同
第二〇九號　青磁硯屏　木地蓋　袋一　壹箇
第二一〇號　青磁牛人物筆架　同
第二一一號　南蠻繩簾四耳水指　同
第二一二號　青磁酒海　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第二一三號　古染附八仙人酒海　伯爵井上馨　同

第二一四號　小野道風詩卷　紙本　壹卷

第二一五號　十一面觀音像　傳巨勢金岡筆　絹本着色　壹幅

第二一六號　月下白兎圖　春日基光筆　同　同

第二一七號　源三位頼政像　傳土佐隆信筆　同　同

第二一八號　山水圖　周文筆　五山僧十二人賛　紙本淡彩　同

第二一九號　薄鷹四十雀圖　伯爵大谷光尊

第二二〇號　雪松狗兒圖　吉村孝敬筆　絹本着色　壹幅

同　同

第二二一號　茶入　福原茄子　伯爵伊達宗基

蓋四袋四　挽家鐵刀木銘小堀宗浦筆　壹個

第二二二號　岩城文琳　上天文琳　同

蓋三　袋四　挽家鐵刀木銘　小堀宗甫筆

第二二三號　瀨戸肩衝　紹鷗所持後遠州所持　同

蓋二　袋三　挽家牙　箱銘小堀宗甫筆

第二二四號　堪忍肩衝　藤四郎作　同

蓋五　袋四　挽家鐵刀木

第二二五號　山里　舊銘村雨文琳　利休所持後加藤風巷所持　同

古瀨戸　神尾紹元所持

蓋三　袋四　挽家黑塗　箱銘小堀宗甫筆

內赤四方盆一

第二二六號　春慶櫑座　陰　狩野探幽所持　同

蓋一　袋二　挽家花櫚銘小堀宗甫筆

箱銘小堀宗甫筆

第二二七號　春慶櫑座　陽　神尾左兵衛所持　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第二二八號　金森大海　海鼠手　遠州所持夫ヨリ神尾備前守所持後舟橋長左衛門所持　壹箇
蓋一　挽家牙　箱銘小堀權十郎筆
蓋二　袋二　箱銘小堀宗甫筆

第二二九號　都歸樽體　狩野探幽所持　同
蓋四　袋三　挽家紫檀　記一通書付一添

第二三〇號　岩間肩衝　同
蓋二　袋三

第二三一號　底面肩衝　金華山窰　同
傳云後西院天皇御物
蓋二　袋三

第二三二號　木戸大海　堀田加賀守所持　同
蓋一　袋一

第二三三號　鶉衣肩衝　阿部豊後守所持夫ヨリ阿部志摩守所持　古瀬戸　同

蓋四　袋二　挽家鐵刀木　銘小堀宗甫筆

第二三四號　高間山肩衝　藤四郎作　同
蓋一　袋二　挽家鐵刀木
箱書小堀宗甫筆　袋箱背山筆

第二三五號　獨寢肩衝　同
蓋二　袋三　內一箇遠州筆歌二首

第二三六號　新見文琳　同
蓋二　袋四　挽家黑柿　書付一通

第二三七號　八雲肩衝　同
蓋三　袋一　挽家紅花棚彫銘小堀宗甫筆
箱書小堀宗甫筆

第二三八號　岸松肩衝　同
蓋二　袋三　挽家鐵刀木銘小堀備中守

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

箱銘小堀備中守

第二三九號　春慶肩衝戸難瀬　壹箇
蓋一　袋一　挽家唐花欄金銘戸難瀬

第二四〇號　獨尊　藤四郎黃釉　同
蓋二　袋二　挽家鐵刀木銘伊達肯山筆
箱銘前同斷

第二四一號　圓座柿　清水道閑所持　同
蓋二　袋三　挽家黑柿銘伊達肯山筆

第二四二號　緋桃肩衝　春慶作　同
蓋一　挽家花欄

第二四三號　妹脊山茄子　古瀨戸　同
蓋二　袋三

第二四四號　柳鶯肩衝　夏山春慶　同

第二四五號　利休きか猨　神尾紹元所持　同
蓋三　袋二　挽家朱塗
蓋二　袋三　箱銀銘きか猨

第二四六號　禾目肩衝　藤四郎作　同
蓋一　袋三　挽家鐵刀木金銘小堀宗甫筆
箱銘前同斷　袋箱銘伊達肯山筆

第二四七號　圓通飯銅　藤四郎作　同
蓋一　袋一

第二四八號　澤水尻張　神尾紹元所持　同
蓋二　袋一　挽家黑柿　箱銘小堀備中守筆

第二四九號　時雨鶴頸　神尾紹元所持　同
蓋一　袋一　挽家黑搔合

第二五〇號　夕顏肩衝　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

蓋三　袋二　挽家蒔繪銀銘夕がほ
箱銘幷歌小堀權十郎筆

茶椀

第二五一號　玳皮蓋天目　壹箇
第二五二號　大井戸　同
箱金銘本阿彌光悦
第二五三號　秋葉天目はいかつき　同
第二五四號　黄天目　同
第二五五號　油滴天目　同
箱銘狩野探幽寛文十二年十一月云々　底ニ朱漆山字アリ
第二五六號　建盞天目　同
第二五七號　堆朱花鳳凰彫天目臺　同
第二五八號　尼ヶ崎天目臺　同
第二五九號　堆朱六葉雲龍彫天目臺　同
第二六〇號　朱曲輪彫天目臺　同
第二六一號　井戸　同
箱書石州
第二六二號　井戸几　同
第二六三號　堆朱櫻形天目臺　同
第二六四號　柳川小井戸　同
箱銘伊達義山
第二六五號　小井戸　同
第二六六號　高麗平茶　同
第二六七號　吉野刷毛目　同
箱銘伊達義山

遠州所持

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第二六八號　千鳥　箱銘伊達義山　壹箇

第二六九號　與謝鹽筍　井戸　箱銘非歌伊達肯山　同

第二七〇號　割高臺手　同

第二七一號　三島雲鶴茶筅置　狂言袴　同

第二七二號　堅手割高臺　箱銘伊達肯山　同

第二七三號　高麗今井　同

第二七四號　猿耳　同

第二七五號　御本手朝鮮燒　箱銘伊達獅山　箱裏ニ故將軍家光公云々　同

第二七六號　朝鮮刷毛目　同

第二七七號　御形新唐津　箱銘伊達獅山　蓋裏ニ記アリ　同

第二七八號　赤玉赤繪　吳洲　同

第二七九號　赤繪茶碗　吳洲外馬内魚　五箇

第二八〇號　染附茶碗　雲堂　壹箇

第二八一號　祥瑞　在銘　同

第二八二號　堺茶碗　箱銘松花堂　伊羅保　同

第二八三號　小鳥　箱書ニ利休云々トアリ　古瀨戸天目　同

第二八四號　初音野子　箱銘宗旦　箱裏書付アリ　底ニ宗旦花押　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第二八五號　古唐津　箱銘伊達肯山　壹箇

第二八六號　井戸脇　同

第二八七號　井戸脇　同

第二八八號　染付赤壁賦銀覆輪　永樂在銘　同

第二八九號　屋躰　雲堂手　同

第二九〇號　おとごぜ　同

水指

第二九一號　青磁手桶　天龍寺手替蓋共ニ黑塗　壹箇

第二九二號　青磁太鼓胴浮牡丹　蓋黑塗　同

第二九三號　染付四角友蓋　萬暦製五爪龍　同

第二九四號　古備前餌籮　底ニ利休花押　蓋黑塗　同

第二九五號　古備前脛當　塗蓋利休所持　同

第二九六號　青磁沈筋三足　蓋黑塗　同

第二九七號　七官青磁手龍手桶　蓋黑塗　同

第二九八號　繩簾　蓋黑塗雨漏手　同

第二九九號　高麗刷毛目三耳　蓋黑塗　同

第三〇〇號　古信樂筒釣瓶　古備前蓋黑塗　同

第三〇一號　烏帽子箱　古備前蓋黑塗替蓋共　同

第三〇二號　割木瓜　銘曰應永三年七月云々

第三〇三號　祥瑞染附へこみ蛯口友蓋　同

第三〇四號　青磁水注共蓋　天龍寺手遠州所持　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

茶壺

第三〇五號　小天狗　呂宋珠光所持底ニ朱漆ニテ花押アリ　壹箇
第三〇六號　小三日月　呂宋信長所持　同
第三〇七號　早蕨　蓋裏銘石州　呂宋利休所持　同
第三〇八號　鳴瀧　箱銘伊達肯山　利休所持　同
第三〇九號　白石藤四郎　同
第三一〇號　十六夜　春慶　同
第三一一號　ゆか美　呂宋　同
第三一二號　清香　同
第三一三號　黄清香　蓋裏并底ニ花押アリ　同

第三一四號　水月　呂宋　同
第三一五號　頼政　紹鷗信樂　底書附　松花堂　同
第三一六號　殘雪　古備前　同
第三一七號　こけさる　信樂　同
第三一八號　若松　呂宋　同

香爐

第三一九號　此世　壹箇
　　このよ香爐記壹通
第三二〇號　青磁青擬手あら玉　高臺ニ花押アリ　同
　　箱銘小堀政之
第三二一號　青磁東福寺　天龍寺手　同
第三二二號　郭公　八角小振　浮牡丹手　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第三二三號　青磁蘆墻　箱銘伊達義山　外箱銘伊達獅山　千鳥手　壹箇
蓋銘及歌持明院基時卿　蘆垣香爐記壹卷

第三二四號　青磁水鳥　小振三足　同

第三二五號　青磁鼠門　螭龍耳附四足　同
金銘鼠門　遠州

第三二六號　青磁槿　人形手　段筋三足　一名延壽　同
箱銘伊達獅山　延壽爐記中院通躬卿

第三二七號　青磁碪手鼎式八卦紋　同

第三二八號　井戸鹽筒　呑海　同

第三二九號　利休破笠　友蓋　同

第三三〇號　染付雲屋躰　同

第三三一號　手枕　しほり手三足　同

第三三二號　染付松竹梅　三足大明成化年製　同

第三三三號　殘雪　上刷目鹽筒　同
蓋金銘伊達獅山

第三三四號　青磁抱壺　一閑人　同

第三三五號　青磁鹽竈　七官　口寄三足　同
烏丸資慶卿記壹卷　由緒書貳通

香合

第三三六號　成化染付龜　壹箇

第三三七號　祥瑞開扇　同

第三三八號　染付瓢箪　鳥差瓢箪　同

第三三九號　染付玉堂佳器　同

第三四〇號　染付頭巾形　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第三四一號　瑠璃雀　壹箇
第三四二號　織部栗鼠　同

花入

第三四三號　青磁碪　壹箇
第三四四號　利休丸柱　伊賀
箱蓋裏利休丸柱花入ノ傳宗守花押　同
第三四五號　青磁四角中蕪　同
第三四六號　南蠻裸燒飯胴へこみ　舟蟲　同
第三四七號　古備前經筒　同
第三四八號　古備前砂金袋底銘弘治元卯年八十才云々　同

雜

第三四九號　古染付松竹花唐草模樣砂鉢　壹箇

第三五〇號　同蟲喰手月中兎模樣皿　同
第三五一號　同八角櫻欄人物模樣皿　同
第三五二號　同八角繩耳附蝦蟆仙人模樣皿　同
第三五三號　同五角鳳凰模樣腰高　同
第三五四號　同蟲喰手桃形三足皿　四箇
第三五五號　白高麗花地紋砂鉢　壹箇
第三五六號　彫高麗平鉢　同
第三五七號　高麗蕎麥糟小鉢　同
第三五八號　吳州底鳳凰砂鉢　同
第三五九號　同赤繪安國正民文字砂鉢　同
第三六〇號　同赤繪皿　貳箇
第三六一號　福州青磁人物置物鉢　壹箇
第三六二號　青磁鯉手平鉢　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
一幅で代金六千円の価値ある完全な作品
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第三六三號　萬暦年製犬置物皿　壹箇
第三六四號　天啓年製菊形三足花鳥染付皿　同
第三六五號　古九谷黄地草花模様鉢　同
第三六六號　古伊萬里人物屋躰錦手砂鉢　同
第三六七號　同錦手地紙形菓子皿　四箇
第三六八號　福銘祥瑞底沈花砂鉢　壹箇
第三六九號　芙蓉手牡丹蟲紋砂鉢　同

伯爵宗重正

第三七〇號　歌仙貫之像　傳信實筆　紙木着色　壹幅
第三七一號　柏鷹圖　狩野松榮筆　紙本　同
第三七二號　茂三作茶椀　同
第三七三號　彌平太作茶椀　同
第三七四號　志賀燒茶椀　同

第三七五號　道二作青磁丸龍香爐　同
第三七六號　小浦燒茶椀　同

子爵朽木綱貞

第三七七號　瀨戸黄釉茶入　銘藤袴　壹箇
第三七八號　織部茶入　銘橋柱　同
第三七九號　瀨戸茶入　銘引實　同
第三八〇號　天目　唐物梨花臺附屬　同
第三八一號　茶椀　銘つりすたれ　同
第三八二號　刷毛目茶椀　同
第三八三號　瀨戸砧形花入　同

子爵福岡孝弟

第三八四號　雪梅圖　僧梵芳自畫賛　紙本墨畫　壹幅
第三八五號　高士看梅圖　宗忠周賀題詩　僧宗忠筆　同　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいわらざるべく、

第三八六號　呂洞賓鍾離權圖　道忍筆　紙本淡彩　壹幅

第三八七號　柳堤渡頭圖　僧宗淵筆　紙本墨畫　同

第三八八號　猪頭蜆子圖　僧揚月筆　同　双幅

子爵京極高德

第三八九號　仁清作藤花彩繪茶壺　壹箇

第三九〇號　仁清作釘隱扇面形彩繪菊折枝形彩繪　拾七箇　四箇

男爵九鬼隆一

第三九一號　寶珠閣曼荼羅　傳土佐經隆筆　絹本着色　壹幅

第三九二號　多門天吉祥天女善財童子像　傳覺鏤上人筆同　同

第三九三號　三穗松原圖　能阿彌筆　紙本墨畫　六幅

第三九四號　釋迦像　傳狩野正信筆　紙本着色　壹幅

市田理八

第三九五號　海波旭日仙鶴双棲圖　松村景文筆　絹本着色　双幅

第三九六號　三聖圖　秋月筆　紙本淡彩　壹幅

原亮三郎

第三九七號　鼠ニ菜根圖　圓山應擧筆　絹本着色　同

第三九八號　竹ニ鶴圖　同　同　同

第三九九號　莊周圖　同　紙本淡彩　同

第四〇〇號　十六羅漢圖　源琦筆　絹本着色　同

第四〇一號　山水圖　謝蕪村筆　同　同

第四〇二號　松旭ニ鶴圖　松村景文筆　同　同

第四〇三號　雨景雪景山水圖屏風　鹽川文麟筆　紙本淡彩　壹　双

第四〇四號　鶉圖　平福穗菴筆　絹本着色　壹幅

西村總左衛門

第四〇五號　保津川圖屏風　圓山應擧筆　紙本淡彩　壹幅

大久保峯

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第四〇六號　瀨戸葉茶壺 煎餅手　藤四郎作　壹箇

第四〇七號　葡萄圖　圓山應擧筆　紙本墨畫　壹幅　川端玉章

第四〇八號　藤花鯉魚圖　長澤蘆雪筆　絹本着色　壹幅　柏原孫右衛門

第四〇九號　蓬萊山圖　中島來章筆　絹本着色　壹幅　片野邑平

第四一〇號　後深草天皇御願文　世尊寺定成卿筆紙本　壹卷
御名宸筆

第四一一號　祈雨法日記　醍醐勝賢筆　紙本紙背古文書　同

第四一二號　皇代記　清原良元筆　同　同
祈雨法日記皇代記二卷ハ松平樂翁ノ舊藏ニシテ檜山義愼ノ考證壹冊アリ

第四一三號　五秘曼陀羅　筆者不詳　絹本着色　壹幅

第四一四號　法然上人繪傳　傳土佐吉光筆　紙本着色　同

第四一五號　舞樂散手圖　土佐光重筆　同　同

第四一六號　文殊像　啓書記筆　紙本墨畫　同

第四一七號　蘆雁圖　秋月筆　同　同

第四一八號　菅公像　周耕筆　同　同

第四一九號　觀音像　土岐洞文　同　同

第四二〇號　松ニ鷹圖　應擧筆　絹本着色　壹幅　吉田丹左衛門

第四二一號　薩摩金襴茶椀　壹箇

第四二二號　志賀燒片口　壹箇

第四二三號　迦利帝母像　飛驒寄惟久筆　絹本着色　壹幅　高橋是清

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第四二四號　歌仙　友則像　傳信實筆　紙本着色　壹幅
第四二五號　魚籃觀音像　愚極禮才筆絹本墨畫　同
第四二六號　不動曼荼羅　筆者不詳　絹本着色　同
第四二七號　菅公像　傳雪村筆　紙本墨畫　同
第四二八號　菅公像　筆者不詳　絹本着色　同

中井敬所

第四二九號　光悅作筒茶椀　銘鷹峰　光悅手簡添　壹箇

下條正雄

第四三〇號　二條爲氏卿懷紙　壹幅
第四三一號　藤原定長懷紙　同
第四三二號　和蘭香爐　壹箇

朝吹英二

第四三三號　青磁浮筋下蕪花瓶　同
第四三四號　瀨戸茶壺　同

阿久澤義郎

第四三五號　鮟鱇形茶入　仁清作箱書金森宗和　壹箇
第四三六號　乾山書畫茶椀　竹ノ畫賛　同
第四三七號　五器茶椀　銘神垣　箱書銀字空中　同

三崎龜之助

第四三八號　多武峰本尊　傳住吉慶恩筆　絹本着色　壹幅
第四三九號　一遍上人繪傳　傳圓伊筆　絹本着色　壹卷
第四四〇號　水月觀音圖　周文筆　紙本墨畫　壹幅
第四四一號　牡丹彩畫水指　仁清作　壹箇
第四四二號　菊桔梗彩畫向附　仁清繪附　同
第四四三號　青磁芭蕉赤繪鉢　同　寛文ノ年號入　同

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第四四四號　俵形水指　仁清作　壹箇
第四四四五號　分銅形水指　同　同
第四四四六號　南蠻內澁寫水指　同　同
第四四四七號　南蠻寫水指　同　同
第四四四八號　肩衝茶入　歌文字彩釉　同　同
第四四四九號　牡丹唐草彩畫茶椀　同　同
第四四五〇號　素燒茶壺　同　同
第四四五一號　信樂寫茶壺　同　同
第四四五二號　月ニ木賊彩畫香爐　同　同
第四四五三號　樂燒角皿　百合花畫贊　尾形乾山作　壹箇　柴田令哉
第四四五四號　菊花圖　佐久間草偃筆阿鯢贊　絹本着色　壹幅　平坂閎

第四四五五號　西王母圖　岡本豐彥筆　絹本着色　壹幅
第四四五六號　郭子儀像　柴田義董筆　絹本着色　同
第四四五七號　瀧見觀音像　三浦乾也作　陶製　壹體
自然木臺探幽筆瀧ノ圖付屬
第四四五八號　日光霧降瀧圖　望月玉川筆　絹本着色　壹幅　廣田伊兵衛
第四四五九號　文殊像　傳宅磨法眼筆　壹幅　森村市左衛門
第四六〇號　中慈童左右犬鳥圖　圓山應擧　絹本着色　參幅

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

追加

第一號　業平朝臣像　傳自筆　絹本着色　壹幅　伯爵井上馨

第二號　瀟湘八景圖　雪村筆　紙本墨畫　壹卷　子爵杉孫七郎

第三號　風雨山水圖　狩野祐清筆　紙本淡彩　双幅

第四號　横川景三禪師七絶一首　紙本　壹幅　市川三兼

第五號　策彦和尚扇面　重陽詩句　同　同

第六號　宗祇法師連歌　同　同

第七號　一休和尚布袋畫讃　同　同

第八號　瀨戸海老耳花生　壹個

第九號　雲鶴青磁花生　同　稲生眞履

第一〇號　不動兩童子　傳智證大師筆　絹本着色　壹幅

第一一號　春日曼荼羅　傳隆兼筆　同　同

第一二號　山水圖　傳周文筆　紙本淡彩　壹幅　前田健次郎

第一三號　雪景山水圖　周文筆　紙本墨畫　同　万里賛

第一四號　月下垂釣圖　傳雪村筆　同　同

第一五號　東坡騎驢圖　雪村筆　同　同

第一六號　山越彌陀像　傳粟田口隆光筆　紙本着色　壹幅　鈴木要三

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花菖蒲の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第一七號　翠岩浩波圖　傳狩野元信筆　紙本墨畫　同

第一八號　常盤ノ前　長澤蘆雪筆　紙本淡彩　同

第一九號　厨子扉畫　諸佛像圖　傳云温泉舊物　清涼寺　貳枚

明治卅五年四月一日印刷
明治卅五年四月三日發行

正誤表

頁	行	誤	正
一	九	蔓茶	曼茶
四	九	し	こ
六	ノ初行ニ加フ	智證大師系圖	同
九	一	島	鳥
同	四	吉	去
一〇	三	鄉	卿
同	一二	傅	傳
同	同	双幅	壹幅
一一	一	同	壹
一二	一	三貌	豫樂

頁	行	誤	正
一二	六	同	衍
同	七	同	衍
同	八	同	參幅
同	一〇	生	星
一三	四	同	壹卷
同	七	恭	菴
同	九	爪	瓜
同	一三	季	李
一八	八	壺	椀
一九	一	枠	染

頁	行	誤	正
二〇	一二	浦	甫
二一	一	蓋三袋四	蓋四袋三
二七	六	几	凡
四一	一二	幅	双
四四	三	茶	茶
追加			
三	一	浩	皓
同	三	温泉	温泉寺

定價金八錢

物館
川町一番地
田喜一
川町一番地
玉舍

第一七號　翠岩浩波圖　傳狩野元信筆　紙本墨畫　同

第一八號　常盤ノ前　長澤蘆雪筆　紙本淡彩　同

第一九號　厨子扉畫　諸佛像圖　傳云温泉舊物　清涼寺　貳枚

明治卅五年四月一日印刷
明治卅五年四月三日發行

東京帝室博物館

定價金八錢

發行及印刷者　東京々橋區竹川町一番地　柴田喜一

印刷所　東京々橋區竹川町一番地　文玉舍

明治三十五年四月

第三回特別展覽會目錄

武器

東京帝室博物館

第三回特別展覽會目錄

武器

御物

第一號　軍配扇　豊臣秀吉所用　壹

侯爵　德川茂承

第二號　具足　壹

兜　早乙女家久作　黑塗、六十二間星、二枚柏葉前立

頬當　明珍信家作　錆塗猿頬

胴　本縫黑小札毛曳蒲黃天鵞絨糸威

大袖、籠手、臑當、佩楯

第三號　鐵團扇　壹

第四號　長烏帽子兜　蔚山籠城ノ時加藤清正ヨリ其臣九鬼四郎兵衛廣隆ニ與ヘタルモノ　壹

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第五號　鞍　大坪直弟作　黑塗　侯爵　前田利爲　壹

第六號　鞍　伊勢貞仲作、銘、文安三年九月十二日貞仲花押　梨子地總蒔繪　壹

第七號　鞍　伊勢貞誠作、銘、文明八年八月二十二日花押　黑塗　壹

第八號　鞍　伊勢貞誠作、銘、文明九年三月五日花押　黑塗　壹

第九號　鞍　伊勢貞安作、銘、明應九八花押　梨子地桐紋蒔繪　壹

第一〇號　鞍　伊勢貞宗作、銘、文龜三年十一月二十五日□宗工花押　馳舟蒔繪　壹

第一一號　鞍鐙　大坪道禪作、觀松齋蒔繪　梨子地鳴門圖丸卍字紋付　壹　侯爵　蜂須賀茂韶

第一二號　兜　慶長庚子役ニ德川家康ヨリ黑田長政ニ與ヘタルモノ　黑蠟色、椎形、眞鍮羊齒形前立　壹　侯爵　黑田長成

第一三號　鞍鐙　慶長庚子役ニ德川家康ヨリ黑田長政ニ與ヘタルモノ　金梨子地葵紋散　壹

第一四號　大采配　文祿征韓役ニ豐臣秀吉ヨリ黑田長政ニ與ヘタルモノ　白熊毛、柄藤、桐唐草彫金物付　壹　侯爵　鍋嶋直大

第一五號　具足　島原役ニ鍋島勝茂ノ着用セシモノ　壹

兜　桃形、抱茗荷前立

胴　小札形、大荒目、萠黃糸威

籠手、面頰、佩楯、臑當

第一六號　縅袍　鍋島勝茂所用　壹

第一七號　具足　藤堂高次所用　壹　伯爵　藤堂高紹

兜　銀、頭形、水牛角角銀立物

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
一幅の金襴、花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

胴　銀小札、白紅糸威分

面頬、袖、籠手、脇當、腰當、踏込、臑當、經巻、守袋

第一八號　具足　藤堂高虎所用　壹

兜　明珍宗則作　六十二間筋總覆輪、四方白、黑作塗、建物鍬形金、向建龍、脇建水牛金、八幡座雨覆銀玉

胴　無櫨形、總銀、小札、紅糸威

面頬、喉輪、鳩尾板、栴檀、弦走、籠手隱、籠手、脇引、大袖、佩楯、臑當、肩着、弓籠手、腰當、總角、繰〻、藥入、胴栓代、上帶、袖力皮代

第一九號　具足　藤堂高猷所用　壹

兜　明珍宗清作　二方白、前立鍬形、日之丸、脇立水牛角

頬當　明珍宗介作

喉輪　明珍宗安作

胴　明珍宗安作

杏葉　明珍宗安作

大袖、籠手、佩楯、臑當、肩覆、虎皮尻鞘、

第二〇號　陣羽織　鷺簑毛花色染　壹

第二一號　陣羽織　孔雀羽　壹

第二二號　筒袖鎧下着　羊皮　壹

第二三號　筒袖鎧下着　白絹毛織　壹

第二四號　陣羽織　黃羅紗、斧打違紋　壹

第二五號　泥障　虎皮　壹

第二六號　泥障　豹皮　壹

第二七號　鞍鐙　鞍銘、長亨二戊申花押、梨子地、獅子壯丹蒔繪、七寶花菱紋付　壹

第二八號　鞍鐙　伊勢貞直作、鞍銘、文安三年九月十二日花押、梨子地、虎蒔繪、澤瀉紋付　壹

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅い、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第二九號　具足　前田正市所用　伯爵前田利同　六

兜　壹

胴

面頰、籠手、袖、喉輪、腰當、佩楯、肩當、臑當

第三〇號　大鎧　松平乘全着用、源義經着用大鎧ノ模　子爵松平乘承　壹

兜　四方白、鍬形金

胴　天平革包、茶匂威

頰當、喉輪、袖、栴檀板、鳩尾板、籠手、脇楯、臑當、頰貫、逆頰

籏、麾、軍扇、腰具、腰辨當、箱、烏帽子、赤地錦直垂上衣、白

羅紗陣羽織、鉢卷、上帶、袖印、弾、揉足袋

第三一號　腹卷　松平乘全着用、畠山重忠着用腹卷ノ模　壹

兜　鍬小櫻革威

胴　菖蒲革威、背板

壺袖　小櫻革威

頰當、籠手、立擧、頰貫、樺地緞子直垂、黃羅紗陣羽織、烏

帽子、鉢卷、上帶、袖印、弾、揉足袋

第三二號　兜　塙團右衛門所用　壹

第三三號　母衣　足利尊氏所用母衣ノ模　壹

第三四號　鐵團扇　北條氏長所用鐵團扇ノ模　壹

第三五號　兜鉢　銘、大永七年十一月日明珍氏家作　今村長賀

第三六號　兜鉢　銘、大永八年戊子十一月吉日明珍信家　壹

三十二間　壹

三十二間　壹

七

觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集
花青瓜の對幅は、恐らく宗丹にいあらざるべく、

第三七號　胴　傳云明珍作　壹
第三八號　胴　無栢、雲龍打出　壹
銘八幡大菩薩天正十三年八月吉日雪下政家作
無栢

明治卅五年四月一日印刷
明治卅五年四月三日發行

東京帝室博物館

定價金二錢

發行及印刷者　東京々橋區竹川町一番地　柴田喜一

印刷所　東京々橋區竹川町一番地　文玉舍

博物館特別展覽會　（一）

博物館特別展覽會ハ、毎歳春秋二期ニ開設せらるべき規定にして、昨年の第一回ハ巴里博覽會へ參考品として送れる古美術品の歸着に際して、悉く之を陳列したるものなりしが、今回のハ全く博物館の鑑査に因て特に蒐集したる由にて、先づ帝室の御物を始とし、諸親王家、及近衛前田兩家の寶物、其他都下諸氏の珍襲に係はるものを以てし、其品類ハ、足利時代以上の書畫、及び圓山四條の畫を主眼となし、兼ねて陶器武器等をも加へたるなり、總數數百點の多に達し、陳列ハ時々變換せらるべしとの事なり。

御物美術品中、星崎茶羅の圖ハ、筆致精微、彩色流麗にして、頗る賞すべきものなり、年代ハ鎌倉初代ならむか、光信の筆と稱せらる、天神緣起（二卷）及び行廣の筆と稱せられし天神緣起（六卷）、共に展せられたるが、何れも參考となるべき品なり、書にハ行成卿の朗詠集、小松内府の消息、貫之の和歌殘闕、定家卿の慶賀歌等、世間に於て容易に觀るを得ざるの名品あり、殊に行成卿の朗詠集ハ、後世の所謂行成紙なる、唐紙に雅致ある模樣を摺出せるものに書せられたるものにして、一見以て好古家を驚かしむるに足るなり。

近衛公出品中にハ、行成卿驪宮高の一卷ハ殊に優れて見受けらる、支那畫にハ、郭熙の牡丹、王元章の山水、馬麟の人物、栢子庭の石菖蒲、用田の栗鼠、默庵の猿、梅道人の竹、孟子固の瓜、劉拐烈の山水、宋旭の山水等あれど、餘りに目を驚かすべきものなし、日本畫に於てハ探幽、尚信、安信三兄弟の筆に成れる、宇治拾遺物語の卷物ハ、最も珍物なり、是ハ槐記の著者なる、近衛豫樂院が三子に命じて畫かしめたるものにて、三子の大作を同時比觀するを得るの點のみに於ても甚だ價値あり といふべし、詞書ハ豫樂院公自らの筆なり、次に應擧の水墨牡丹猫圖ハ、恐らく應擧三十二三歳の筆ならむか、筆致意匠頗る見るに足れり、元信の森林群鴉、意匠愛すべし、義滿の枇杷小鳥、輕妙にして雅なり、其外啓書記の山水、相阿彌の山水、對幅、秀信の麝香猫（傳來にハ雅樂助と稱すれども秀信の印あり）、應擧の竹雀、直菴の睡猫、黄檗大鵬の竹等ハ妙作にあらず、宗丹と傳ふる、鶏頭花青瓜の對幅ハ、恐らく宗丹にハあらざるべく、

狩野家の支那畫に法りしものとすれゞ面白きものなり、又元信の山水三幅對、雪舟の三十三觀音の帖ハ、大作なれど、其の可否を疑はざる能はざるものなり。

塲中の傑作として特に記すべきハ、西村總右衛門氏の所藏に係る、應擧保津川の大屏風なり、是ハ讃岐金比羅の激流奔湍の圖と併稱せらるゝ、應擧の大作にして、款に乙卯晩夏寫とあり、乙卯とハ寛政七年なり、應擧ハ同年七月十七日を以て沒したりといふが故に、此圖ハ則ち翁の絶筆たるや疑ふべからず、翁が死に先つて、猶ほ是の如き遒健活達の作を爲せしハ驚嘆の外なきなり、圖中激流の奔駛する趣より、左右巖石の錯疊して、古松、三株の其上に峙立するの趣に至るまで、悉く寫眞の中幽深の意を寓したるや、技倆の卓絶を認むるに餘あり、又右方瀑水の落下して水煙を揚ぐる所、殊に賞僅々數筆の輕線を以て寫了したるが如き、殊に賞せずむべからず、今や聞く所に由れハ、金比羅の激流奔湍圖の方ハ不幸にして染汚の難に遭へりと、然らば此圖ハ是れ國家の珍寶として、益す尊重せらるべからざるものなり。

博物館特別展覽會（二）

諸親王家の御出品にてハ、傳に巨勢金岡筆と稱する聖德太子の畫像ハ、殊に有名なるものなり、圖樣ハ太子十六歳の時、始めて法海に入り給ひて、緋袍に青色の袈裟を纏ひ、兩手に香爐を持して立ち給へる姿なり、其の端嚴にして且つ清麗なる、人をして直ちに隨喜の念を生せしむ但し之を金岡の筆に歸するハ當らざるべく、金岡よりハ遙かに後のものならんと思はるゝなり、然れども畫の妙に至てハ固より多く類を見ざるなり、次に光茂の筆なる車爭の屏風ハ、大作にして參考となるべく、書にてハ、智證大師の戒牒八卷の如き最も著しかちん。

諸士出品の中、片野氏の五秘密ハ、醍醐寺及び仁和寺の五秘密と伯仲すべきものにて、布置ハ整齊なれども、又自然的なる所あり、彩色ハ除りに濃厚ならず、全體ハ寧ろ微妙なる描線の力に因て、無限の趣を得たるもの、如し、之れを鑑して藤原時代の末、春日派の作と云ふ、蓋し動かざるの說

なるべし、又同氏出品の啓書記の文殊ハ款印なしと雖ども、殆んど疑を容る能はざるものゝ、次に三崎氏出品の、多武峯曼荼羅ハ、多武峯の寶殿中に本尊彌陀を畫きしもの、作法ハ極めて温雅にして、味あり、蓋し其の筆者に就てハ從來二說あり、住吉內記ハ之れを土佐行光と鑑したりしが、或人ハ之を住吉慶恩と云へり、而して今ハ慶恩と云ふ方正しからずとの說多きに居る、次に稻生氏出品の不動尊の大幅ハ、智證大師と傳ふることの可否ハ暫らく措き、活達なる作として見るに足るべし、佛畫にハ、此外井上伯の十一面觀音、九鬼氏の寶珠閣曼荼羅等參考となるべし、唯だ鈴木氏の山越の彌陀ハ、古色ハ充分なれど、畫ハ決して妙作と稱すべき程のものならず、之を粟田口隆光の筆と傳ふるハ寧ろ奇と謂つべし。

井上伯の出品にて、周文の山水、上に五山の僧十二人の讃あるものハ、誠に珍らしき品として、殊に觀者の目を惹くなるべし、畫ハ如何にも凡筆にあらず、然れども越溪周文の印にハ疑なき能はざること、今日多數鑑古家の認むる所なり、是の幅と同樣のものにて、畫ハ是の如く複雜ならざるも、矢張り五山僧侶十數人の讃を有するものハ、三浦梧樓子の所藏中にもあり、三浦子の方ハ周文の款印なけれども、殆ど周文として疑なからんと覺ゆるものなり、若し兩者を幷べ展して比觀したらんにハ、頗る面白き結果を得るやも知るべからざるなり。

原氏出品の應擧の莊周ハ、上に柴野栗山の讃あり、作法ハ故に淡泊にせられ、唯顏容に於て例の寫生的表現をなしたるもの、全體ハ如何にも應擧の特質を寓はしむべきものなれど、彼の保津川の屏風の前に在りてハ、遜色ありと謂はざる可らず。

宗伯出品の信實歌上疊ハ、名品なり、世に信實歌仙といふもの頗る多きが中に、宗、松平、柑馬三家に散在せる五葉ハ、最も佳なりと稱せらる、宗伯のと相幷て高橋氏の歌仙も展せられたり、是ハ改裝の爲にや、全體古致を失して見ゆるハ遺憾なり。

博物館特別展覽會（三）

蜂須賀侯出品の、所謂梅潛りの壽老ハ、雪舟の傑作として甚だ有名なり、此畫筆致に於てハ例の活達を缺けるが如しと雖も、全体に於てハ、他作者

の到底擬倣し能はずと見るべきもの少かちず、又同侯出品の西行物語の畫卷ハ、土佐經隆の筆と傳ふるものにて、元來二卷なるが、他の一卷ハ現に尾州侯の所有に係れりと聞けり、畫風眞に古土佐の面目を存す、之を繪卷物中名品の一に數ふるも、亦何の不可かあちん。

京都博物館出品の源琦の美人圖ハ世に多く見る美人圖と異りて、艶麗に失せず、頗る應擧の風致に似たるが如きを以て賞するに足る、原氏出品の十六羅漢圖同じく源琦と稱す、之を前者に比するに蜜ろ覇氣の强きを慽とす、大谷伯出品の孝敬の狗子圖ハ正しきものならん、其他高橋氏出品の雪村と稱する菅公、及び市田氏出品の景文の海波仙鶴等ハ妙作ならず。

前田侯の書畫ハ、近衛公のと同樣に別の一室を充せり、其中の最も呼物となるべきハ、雪舟四季花鳥の屏風一雙ならむ、先之を雪舟の眞筆とすれど、是ハ斯迫に取ての一大發見ならむ、然れども其の眞否ハ未だ容易に決定せらるべからず、今其の畫を觀るに、筆致ハ活達にして、彼の梅潛りの畫老なるよりも、寧ろ雪舟特有の調に近きものあるが如く見ゆれども、唯だ圖樣の殆ど統一を得ずして錯雜を極め、或ハ恰も他の圖より取り來りしものを、無意義に湊合したちんかと思はるゝ所あるハ、雪舟として如何あるべきや、是れ疑はざるべからず、次に猶ほ一つの疑問とすべき點ハ、兩方共に落款の上部一隅に在りて、其の位地宜しきを得ず其の書も割合に拙なること是なり、畢竟吾人ハ此畫に就て尙ほ充分考ふる所あらんと欲するものなり。

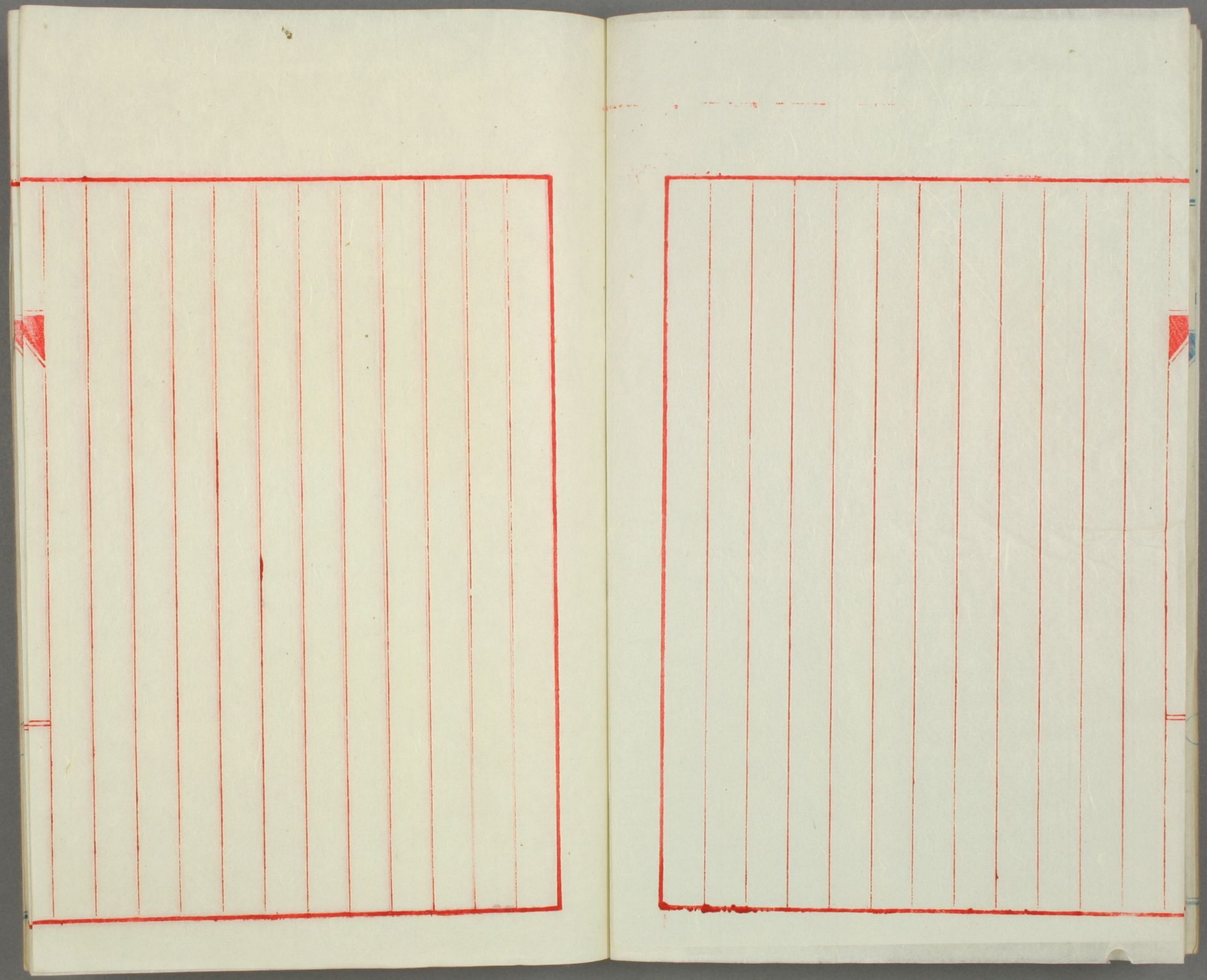
前田家の出品ハ、右の外畫卷に光茂の繪草紙作者不詳の一遍上人傳あり、元信の山水屏風一雙あり、秋月の竹鶴對幅ハ畫ハ下作なちざるも、落款の拙なるハ如何、雪舟の壽老及龍の三幅對に至てハ、吾人ハ未だ其の可否を知らざるなり、書にハ弘法大師の儀軌、西行の中務集、寂蓮の懷紙、定家の消息、爲家の金葉和歌集、爲氏の續古今集等數點あり、何れも珍物と謂つべし。

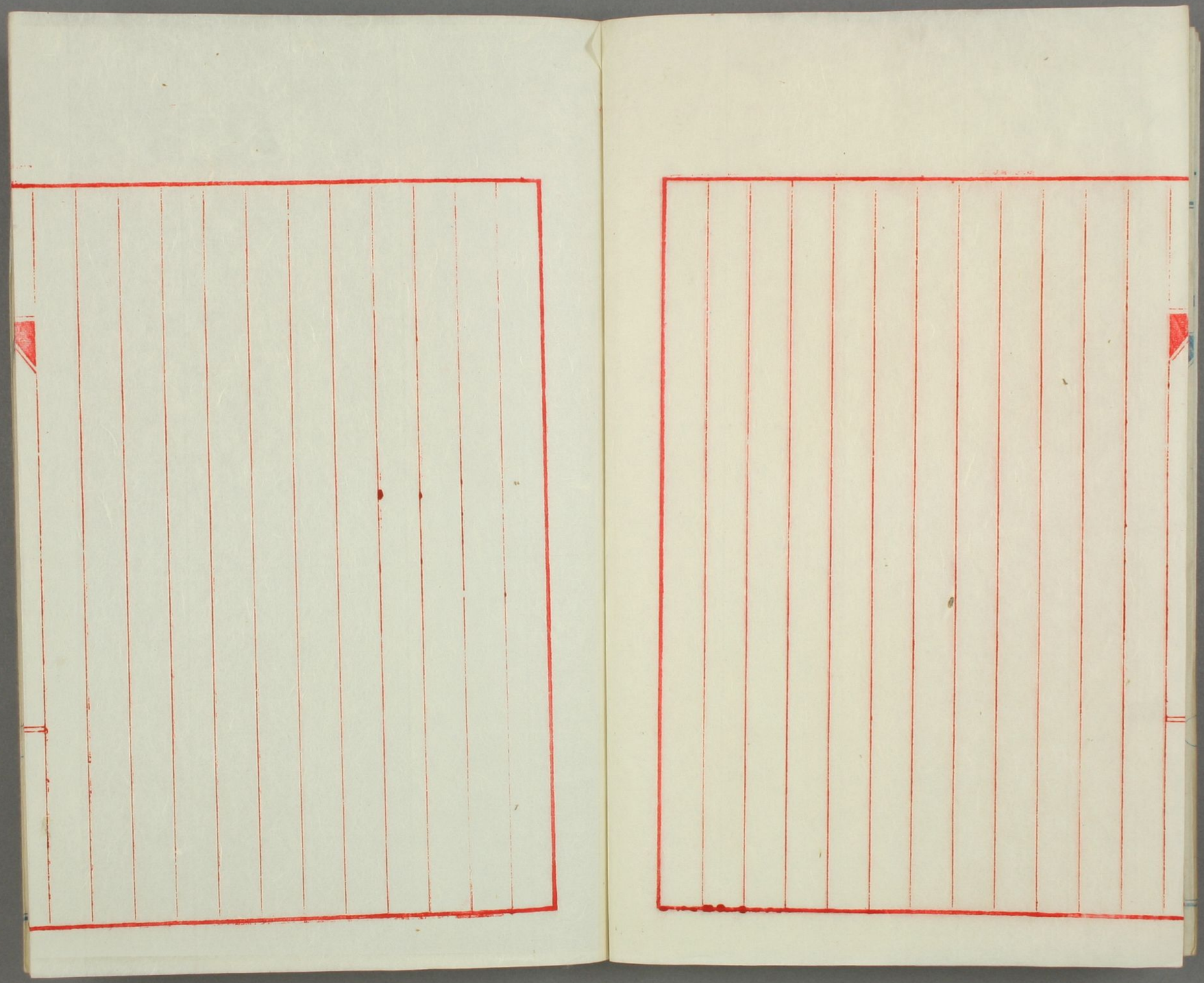
書畫の方ハ概略以上の如し、陶磁器に至てハ、御物千鳥の香爐ハ、仙石政固献上のものにして、仙石の書付を添へり、小松宮殿下の御出品にてハ、江月和尙軸物附、文林茶入、及び唐物、耳付の茶入、仁清片身替り茶碗、禮賓茶碗ハ殊に勝れたり、梨本宮殿下御出品にてハ、仁清作の茶器甚だ多く、何れも當時の儘にて、未だ使用を經ざるものなるハ殊に珍らし。

伊達伯の茶器ハ階下の一室を充す、其多數なるハ驚くべし、其中の重なる者ハ、小堀宗甫の銘ある福原茄子、岩城文林、瀨戸肩衝、山里舊名村雨文林、及び秋葉天目はいかつき、黃天目、松花堂の銘ある堺茶碗、天龍青磁手桶、小天狗茶壺、此世香爐等なるべし。

其他前田侯の瀨戸肩衝茶入、石河丸壺茶入、白天目、青磁口寄香爐、京極子の仁清茶壺、三崎氏の仁清茶碗數點等何れも賞すべく、中に就て京極子の仁清茶壺ハ、藤花の麗雅なる模樣あり、意匠の模範として勝れたり。

次に歷史部の陳列にてハ、御物なる秀吉遺品の軍配扇ハ、柄及び輪黃金にして、赤地の織物に金絲の唐草を繡ひ、各部眞珠琥珀等を嵌入したるものにて、形容頗る美麗なり、德川侯出品の長烏帽子兜ハ、加藤淸正蔚山籠城中、九鬼廣隆に與へしものなりといふ、黑田侯出品の白熊毛大采配ハ、文祿征韓の役、秀吉が先鋒の命を共に黑田長政に與へたるものなりといふ、以上三點ハ最も著るしきものにて、其他にハ鎧、兜、陣羽織、馬具等の、歷史上又ハ工藝上に參考となるべきもの數十點あり、總じて歷史部ハ品數影多なちざれど、陳列法ハ宜しきを得たり。





○市川寛斎の手元数を記す

予一見を願はし市川寛斎蒐集の手元数を拙
著偶々此地に来り鈔の本鈔を陳列し来るを
見たり所多屋敷を見し明治廿五年頃
迄行きたるも全く拙著を陳列し
寛斎自筆の清文の序を附し市河の序者
印を捺すこと、此年市河三亥氏寛斎の
未庵蒐集の文書を受けて博物鈔に献じ
たりと少きしかし此の拙著七共内の者ども占数
七多雲七八十七ちん、鈔ども序を清文
七寄の文字を用ふ無味なる世事なる為
時行主のくくしくて借ども品行大を古る

一播磨国経
[illegible]天皇の御宇極楽寺僧禪慧が助を以て
作る史氏寺の後峯を埋めるもの光格帝寛
政十一年神祇官吾名村字須賀陵の墓掘さんとする
一宇治河崖涅槃経碑銘
一同　仏像
一宇治新碑
一紀士継墓版銘
一興福寺南円堂銅鐘銘
一元亨天皇陵碑銘

一灰石
一多胡碑
一威奈真人大村墓誌
一伊福貴部徳足比売墓誌
一阿弥陀経碑銘
筑前国宇佐郡田鳴村鎮西寺[illegible]
立寸幅二尺三寸銘表面に仏像刻し
あり
一[illegible]川年定墓志
一山上碑
上野国多野郡八幡村字山名の山の上に観音堂
の傍らにあり

一興福寺鐘銘

今を遡ること七十餘年海内鐘銘これを以て文をもつて

一楊貴氏墓版銘

一美努連岡萬墓版銘

一那須国造韋提碑銘

一薬師寺塔塼銘

一船首王後墓誌

一法隆寺金堂釈迦如来像背銘

○七文書　付和銅改元

而もこれを書せしめ（ママ）ることを設けるに即ち詔の
戦の長沈惟敬小西行長と執きえ和を講じ太
閤秀吉も行長らの注進を聞き張等えとなる共
折の文書ありこれ文而もまた
使の罷まる態なるべく、日閣より我国の蛙和
事一件も思ひ出さるべし

誓詞

罷去る四月朝鮮国々王使と者悪口し是ハ
江御船に乗ハ（ママ）ハ中書ハ名ハ下ハ名ハ下ハ名ハ
花左様ハ書御産ハ書ハ其者ハ偽ハ不及
文人ハ曲事ハ下ハ仰付ハ上

文政二年十月廿日

江戸大納言花押　家斉
大和中納言花押　徳川秀忠
秀忠長男秀俊

廿六日遣書

○紙京著書

紙京にて著書を著し代く著辛書を著し行うこの
事四国屋とあり是国江狩中紙京を以て著書し
と云ふ弥武兵弥論を清文の様版の義を文言ゆ
り版もしかり乃ち仕様あり紙京を以て摸本の版
刻を尺寸を分ち此書文久三年上に行う

と書とあるより生野の意味なるべし義民太田仁
右ヱ門の出でくるを以て二十年　堅上　西京弥駐軍中
義民の義を川悦者ノ文を献納しいるとあるを
博物館に陳列してあるを拓博ぶ漆型の文を拓
出でもしかるに一頁五行（こ）字の大サ七八分四方
字の体名文を書体の道美学ぶ
弥流文の事も四方にて拓の文きこの
ちなみに紙京を以て拓の文を道美の作を芸人
五を五ひび紙京遺徳紙を五ちこんを音
人西鳴（検校）この作ゆを文の大
キサ四方もちろん拓刻曲りなるもの硬う

又二百人の墓を発掘し京河三家献納品の一部

○土器　石人　銅鐸

博物館古代土器出第十位和泉出土品三十個の土器を始め兩津
郡能登国より掘出のものなりと共の第一番を陳列してある
墓を金子氏の所有のものなりと云ふ内部に黒班布目状
ものも異なるものあり略々似たるも比較的胴腹全部へ
少しく張を出せり
石人を昨日三十年前能登国鹿島郡より流出せし
ものを載せ写し陸体大皇の御宇能登中島郡
鹿島郡能登生平の墓を発掘石人石棺各六十枚
を四面に周囲せしものと即ち共一部を流

故八幡郡七尾町村字大田岩屋山（四移上表所出之処）
又一説に福島城址なりとも云ふ
銅鐸大小十数箇あり石大なるもの長四尺巾二尺
山江国郡郡郡野村字小篠原村大岩谷発掘
出すと云ふ古色掬すべし此器の中に入れたるものと云ふ
外泡なる或る風鈴の如く振動すれば鳴音を云
ふなり楽器なるものの後あるも、平田馬場氏の説
考証の著したる弘仁暦宮を考察すべし金を
年未詳の器を一口手に入れんことを欲し堀井氏を依
頼し紛ることを乞ふ珠洲郡人の所有なる銅鐸を見せ
或作也と聞くしく二十の内とるべきものしく胸

[illegible]

[illegible]

○オシラ神

オシラ形ハ奥羽地方ニ於テ祀ル形ニ男女ノ二種アリ男女ノ頭ハ木ヲ以テ作リ体ハ布切ヲ以テ包ミ一種ノ偶人形ヲ為ス

○片山博士の「彼の岸」

片山國嘉（医学博士）氏とは一二度面晤したことあるも氏の文学に深味あるを知るのみ。氏の作品に仏教的思想あることは未だ知らざりき。因らざりき。今氏の和訳の作るを聞くに及んで、はじめて氏が亡兄七年忌追善のために、この日本を膳立てす。

般若心経

大慈大悲の観自在菩薩
因縁微の大菩薩
大智の光明かがやし
五蘊は都べて空なりと
真の道を照らして
法の彼岸に渡して
迷の海の苦みを
消して彼岸に着きたまふ

やすやすと利弗よく聴きね

色と空とを同じくして
空と色とを異ならざる
色さとりの中にして
中にそのまゝの色なれば
さんば受といひ表とい
まと行といひ識といふ
いの上も亦如是

かく諸の法のなるが
空なる為なれば
もとより生のなくさんば

東京帝国大学附属図書館

また滅といふこともなし
かつて始めのなくさんば
なんぞ滅すべきものもなし
始つくことのあるべからざれば
浄まることもなし

空を離れて更に又
色もなく受もなく
さんば想もなく行もなく
識もなければ眼もなく
耳もなくさんば言はなく

色香味触法なり
觸も法もまたかくのごとし
六つの根本さらにかくのごとし

六根六塵の
なかにそなへたる無明とまの
間に起る後もかくのごとし
乃至高祖と法華の
おこす高論もあるべきなり
乃ち五道十二因
十八界もことごとく

いづれも
さて又この
生死涅槃の
生死すれば
滅おとこもみな
共集滅道の因もなく
果もあるべきなり
さてまたこの諸々の
あるべき真の相もなし

菩提薩埵はみな所知の

東京帝國大學

心もろ〳〵は真實の
智慧の光明かゝやう
を照の御形を拝さしと
山の海をさはりなく
御心の中の諸〻の
類例事を尽んとて
光の光をつゝみ給ふ

十方三世もろ〳〵の
みほとけたちも悉く
かゝる真實の光に

真理を顯はす光明なり
故に佛と又佛の
ふたりの四つの光明なり

即ち般若波羅蜜は
能く諸の苦厄を
除き去りて
真実なる
安きけしき
いとやすけなる
いでや祝うたん 摩訶般若

東京帝國大學圖書

波羅蜜多なる言の葉を
もろともに光の四方へつきそこと
心の海の深きを知れ

○鏡

鏡なるこゝを前にかゝげしこの鳥獸の形仁歷道
記なるをもてこゝに抑々此の品の掘出されしを古きまま
事なり、扶桑略記の記なるを按ずるに天智天皇
七年一迫江國志賀郡に於て出現物なりと事なり

とゝ地を平らげしめしゝ言ナ五尺ばかりの奇異の
寶鐸一口を掘出せりとあるこの北の荒のあるべんし
初めて元正天皇和銅六年大倭の國宇太郡
浪坂郷人大初位上村東人銅鐸を去る所の北なる地を
掘しなるとあるサミ尺口ノ径一尺高律合ス根
元仁の西司ス勅して花せしめ給ふと少こゝの文收略
嵯天皇紀も清和天皇紀も北条抵出の由を載せ而して
其の用ス所を抵出のものなりとして一の解なりとして阿育
王の塔鐸なりと言ひ傳ひ後古事記又大和の
國志四山ス条志の手書の法なる銅鐸あるこんを天
のまちやくなるべし萬葉をこんを解しおちかく

ハ此なく寶鐸の轉化なるんとなるべき此亦東北荒
の出る一なりとて是亦其地と大なるものの如きあり
と雖も大体の推考なるを略々同じ所なる北荒を
何の必要を用ゆるなるの如きの如きの如の輸入品なる
なる七東海地方も未北決定の説なるを如
屋代氏高島氏等も共に説あるを思ん
和なりとも北荒を西宣なるの説なる出れ
うなん二説の説の方既を考へなるこなを
以屋代氏云く
鐸ハ説文ス大鈴也西司馬執鐸と云へるんを手ス振
て振ふなる者なる博古図ス周栖鳳鐸高サ六寸

八分柄長サ四寸七分、雷柄鐸、高六寸八分、柄長三寸八
分[illegible]、然[illegible]朝[illegible]五尺[illegible]の鐘を
鐸と名付[illegible]誤[illegible] 白芽通夫云、銅鐸、
昔古懸大伽藍之四隅、又云、寶鐸、風鐸、撥鐸、
一物而鈴大者也、元征戦之間度、后以為佛器、
と云へり、風鐸と云一遍[illegible]物の誤[illegible]、宗の八坂
の塔[illegible]鐸を[illegible]方七寸九分 鈕[illegible]
して穴あり[illegible]
物を後世如の一遍鐘と類[illegible]征戦の具と
[illegible]誤[illegible]軍旅之用[illegible]司馬の執[illegible]
して手[illegible]振べき[illegible]のあり、如設阿育王

塔鐸と云へり[illegible]因[illegible]漫[illegible]風鐸[illegible]と云へ
り[illegible]
抑[illegible]用ひしこと詳[illegible]天
[illegible]天皇の[illegible]を[illegible]異と称し
寶鐸と称[illegible]如[illegible]天[illegible]天皇の[illegible]大和四
[illegible]を掘出せし[illegible]銅鐸と記さん
弘仁十二年之播磨国[illegible]掘出せし時[illegible]人[illegible]
王と阿育王の塔鐸[illegible]と云ひしに成[illegible]
祝二年冬河内国[illegible]獲[illegible]如[illegible]云へり
掘[illegible]如[illegible]廣大和尚東征傳[illegible]の阿育
王寺に河育王塔[illegible]其塔[illegible]盤[illegible]

中ニ懸鐘ヲ地中ニ埋没シテ能クカヽルヲ上トス
ノ如キヲ以テ此器地中ニ埋ミ置ク所ノ鐘ヲ
ヒヾキヲ聞クベシ 和名ノ遍鐘ハ銳間ニ出ル舞上鼓鉦
ノ如ク穴ヲ穿チ或ハ切欠ケルモ、律呂ヲ調ヘル
ガ如キモノニシテ元来此器ハ律呂ヲ根本ニ云ヘ
ル金ヲ考ヘルニ此器モト音律ノ為ニ作ルモノ
ナルベシト云ヘリ 以上

馬鈴角ヲ用ヒル

さて右の古器ども舞鐸と称ひ来れる物ども如く
其説ふる所ハ神典ニ奴豆ヲ比礼ヲ比礼ノ相教ヘ給ヒ沙之
宮ヲ用ヒ給ヒ其ノ相教ヘ給ヒ沙之

東京 樋口製

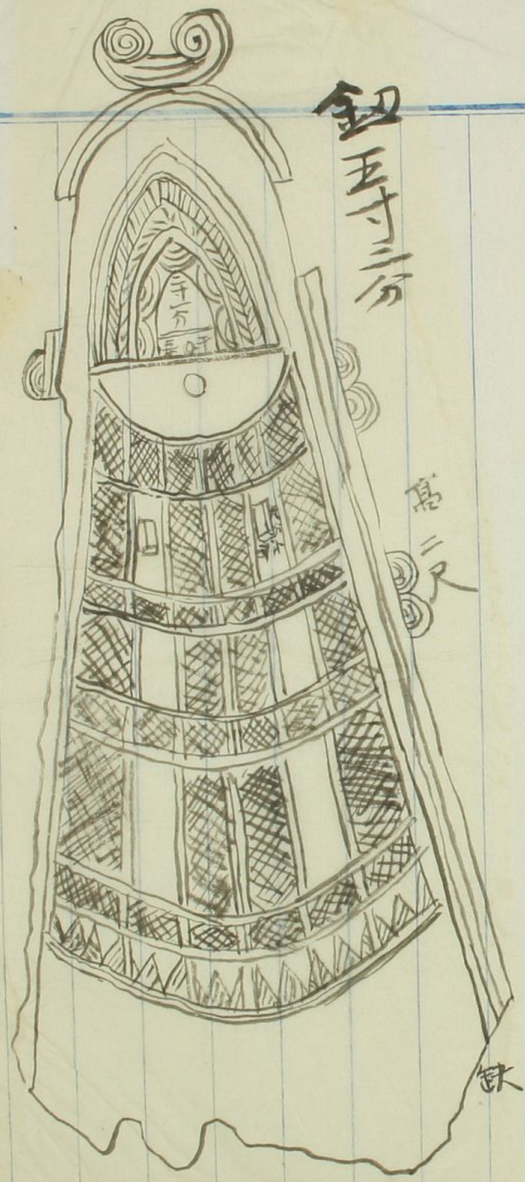
ヒ給ヒ奴豆ハ奴理豆ノ略法ニテ古ヘ紀ニ見エタル伎那伎ノ事
ハ古法拾遺ニ共ニ師ノ記傳ニ詳ニ考ヘタリ
上ノ件ノ器どもヲ其所ニ置テ内ニ振玉ヲ
付ベキ所ヲ設ケ亦典ニ、奴豆、伎那伎
ヲ物ノ如く振ル事ハ非ず古書ニ見エテ
思ヒ合ヲベキ事ナケレバ其名モ未タ知ル
ベキ由ナシ 然ルニ後代筒ノ遍鐘ト
称スル右ノ古器ども出ル年ヨリ極
リ出ル事ヲ考ヘルニ此ノ鐘ハ
世ノ始メ、また鈴ヲ家ニ置キ、元初ノ
多ノ国ニ古ヘ阿育王ノ造ル鐘ヲ
ど謂ふ如クヒハ、論ヲ待ツモ是ハ宝ヲ

[illegible]の[illegible]に[illegible]天皇の[illegible]、[illegible]世
国々の[illegible]と[illegible]
[illegible]、其国々[illegible]
皇国[illegible]代の[illegible]と云ふ[illegible]神武
天皇[illegible]年、[illegible]有り[illegible]
を以て彼の隆盛[illegible]
人々を定め[illegible]
[illegible]
時を謂て[illegible]彼の俗[illegible]三世の[illegible]
きを設て五ひ生る[illegible]
[illegible]

佛書の謂ハ[illegible]三世の[illegible]
序巻末の大千世界品と[illegible]

[illegible]

[illegible]る紀[illegible]北の銅[illegible]
丘[illegible]の[illegible]和[illegible]
鏡鈴[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]彼の国[illegible]
[illegible]
土中[illegible]
人の家[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



釧玉寸三分

高二尺

鈴

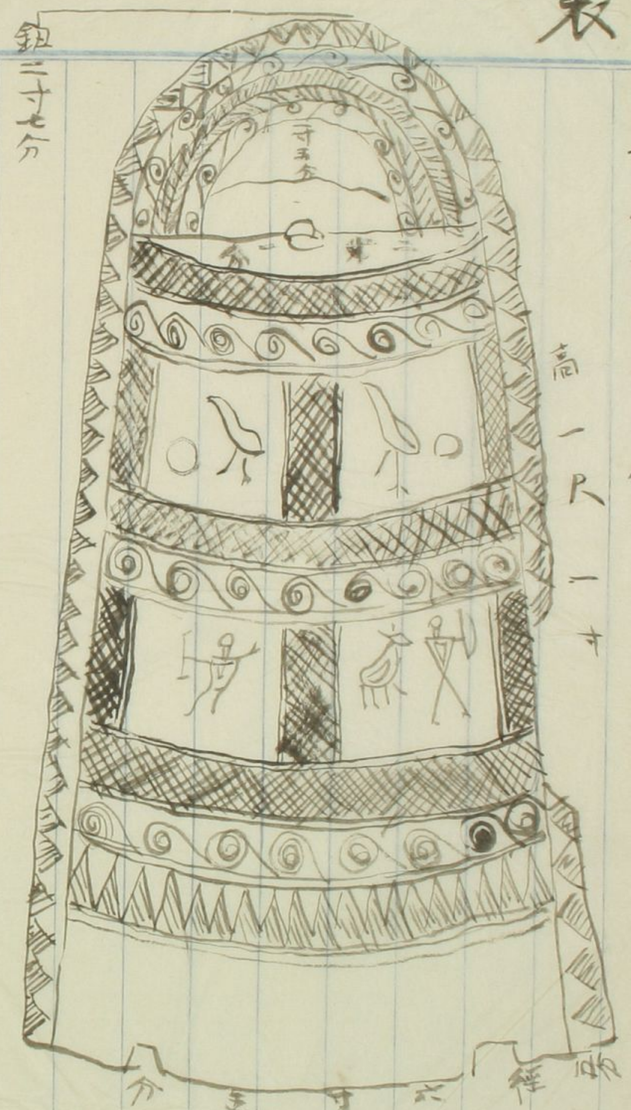
天のぬちやく

是人間の手法の文字に似たれども、手ごろ鬼の若
ちからを世のはるかに武かるをたとへたるなり
また世八月晶下判淳記とのとなりとぞ

東京帝室博物館

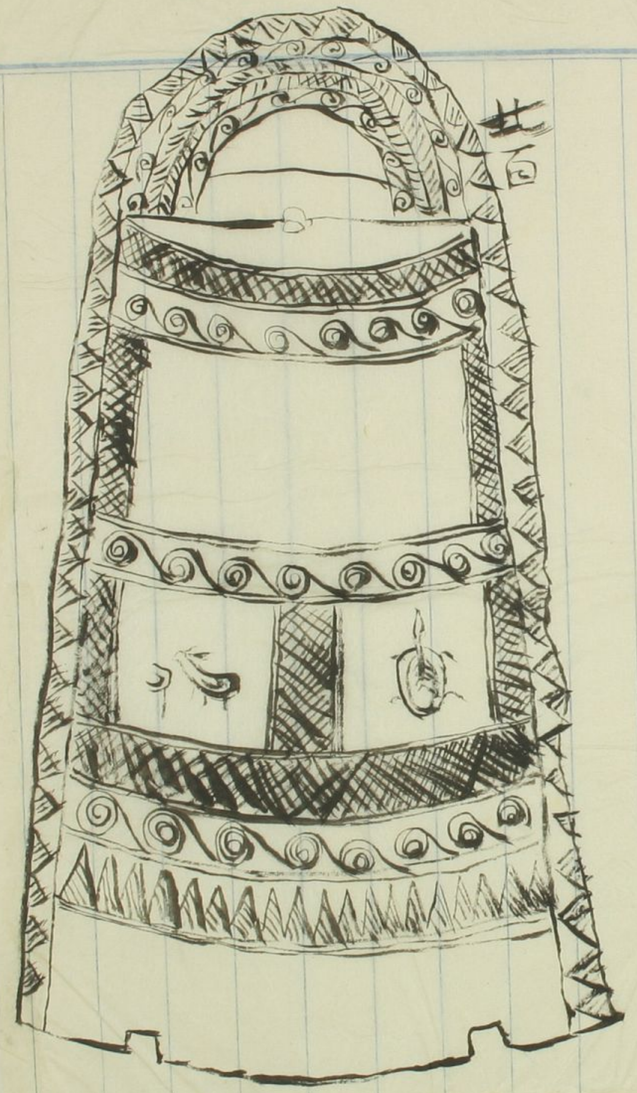
表

谷文晁石郭の鐔



東京博覧会

背



閲覧室

東京都立中央図書館

明治三十五年
四月上澣
春城子人